

Vol.243



かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

病院ホームページは

<https://www.mhi.com/jp/company/hospital/kobe/>

発行責任者 病院長 中村 吉貴



健康診断などで視神経乳頭陥凹拡大と 指摘されたことはないでしょうか？

眼科 医師
井上 紗季

緑内障という病気は、2000年頃に日本で行われた調査で、40歳以上の日本人の20人に1人が罹患していると判明した非常に頻度の高い疾患です。さらに注意しないといけないことは、この研究で緑内障と診断された約9割の方は、その研究で初めて診断されたということです。つまり、この病気は自覚症状で気づくことは難しいのです。この健康診断などで言われる「視神経乳頭陥凹拡大」という指摘は「緑内障の可能性が疑われます」ということなのです。

Q 緑内障はどんな病気？

A 視神経に障害が起こり、視野（見える範囲）が狭くなる病気です。最初に自覚する症状としては、視野が狭くなったり、視野の一部が欠けてくるといったものです。しかし、緑内障は少しずつ進行するため、自分ではなかなか気づきにくいです。最終的には視野が大きく欠けてしまい、視力も下がってしまいます。

Q 緑内障の治療方法は？

A 眼圧を下げるのが治療になります。たとえ眼圧が正常範囲内であっても、緑内障と診断されれば眼圧を下げるのが望ましいです。

眼圧を下げる方法としては、点眼薬、レーザー、手術などがあります。どの治療方法を選ぶかは、緑内障の種類や進行度合いなどによって異なります。それぞれの治療の効果、副作用、良い点、悪い点がありますので、その判断は患者さんごとに異なります。

現在、緑内障を根治させる方法はありません。長い人生最後まで「見える」状態を保つためには、早期発見早期治療が最も重要です。健康診断などで「視神経乳頭陥凹拡大」と指摘された場合には、一度眼科を受診して検査を受けていただくことが大切です。

お問い合わせ先

【眼科受付】

078-672-2649 (外線)

8-63-22649 (内線)

医師交代の お知らせ

佐和 琢磨医師(内科)、豊田 純貴医師(内科)が2023年9月30日付で退職いたしました。山崎 京子医師(整形外科)は一般診察を終了いたしました。また、佐々木 優依医師(内科)が2023年9月19日付で、福井 一弘医師(内科)、松山 裕医師(内科)が2023年10月1日付で着任いたしました。9月・10月着任医師は、次月号の「かけはし」で改めて紹介させていただきます。

2023年度 第4回

「院内講演会開催のご案内」

眼科 横川医師による院内講演会の開催を次のとおり、予定しております。どなたでもご予約不要でご参加頂けますので、ぜひお気軽にご参加ください。

テーマ 「緑内障について」
日時 10月19日(木) 午後3時30分～(約30分)
場所 本館1階 外科・整形外科待合

眼科
横川 知弘